



臨床心理士KY



心理の闇に迫る

インチ・バイ・インチ

心理の闇を探る一ージャパニーズ・ヒーローおまけ

臨床心理士KY

「僕は僕は……僕は風俗に貢いで幻想の中裏切られたんだあ〜ッ！」

K病院、私の習字“一切苦厄舎利”の半紙を見て考え込むW先生。

一方、心理のKYさんは“一般の教養、塗り絵、百問の作文”などを解かせずして私をコントロールしようと考えたらしい。

「いや、Nちゃん。いや、Nちゃん。」と口説いてきた。

Nちゃん-----それはR風俗嬢が突然、入院してきて夜、密かに個室に誘われ私とキスしたコである。「このひとはキスがうまいのよー」
もうNちゃん眼がトロン。

しかし、K病院の盗聴はすさまじく、私とNちゃんとY君が三人でアバンチュールしたら、担当のN看護婦がとんできてつれもどされた。

すごい。「いろんなところから情報がきました」

その後、NちゃんにY君は告白するのだが、Nちゃんは私が好きなの！

と断った。

R嬢はK君とHして、ふたりともケアマネージャーに見つかり転院していった。その奥の個室での冷房が壊れてのNちゃんの個室前の居座り。

キスの嵐。

私が実家に外泊して帰院すると、Nちゃんは孤独に耐え切れず、床にくずおれて個室に鍵を外からかけられて隔離されてしまった。

そのまま退院。

心理のKYさんはキスについて「あれは」と言い、外泊のとき、目前にせまってくる。

キスをするのだろうか？

避けて院外に出て外泊すると、Nちゃんとメールした。

「まだ電車動いてるよ。」

「じゃ、HF駅にきて！」

タバコの自販機前にかがやくエンジェル。

KY心理士は双方の心理と、生理を見抜いていたのである。

私が油断してまじめでなかったら、こどもができていた！

そのラブホテルはどうだったか、あとで聴くと

“デカすぎた！ エロすぎた！”

だという。

私は外々泊して、二人ともSEXしながら、何度も鳴るケータイを切った。

テンパってたそうである。

この後、私は誤嚥性肺炎でH医療センターに入院し、K病院にもどったら多人数部屋の慢性期病棟へうつされた。

私はドツボにはまったのである。

KY心理士はときどき老女にも見え、若返ったりする変なひとだった。

———完———

臨床心理士KY

<http://p.booklog.jp/book/100037>

著者：インチ・バイ・インチ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/beroman/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/100037>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/100037>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ